

出来事ファイル (No.20-12)

■整備するむ鯉川筋

9月23日、中央幹線道路から栄町通にかけて鯉川筋西側歩道の拡幅工事が、神戸市中部建設事務所指定業者(株)島田組により順調に進められている。JR・阪神電車の元町駅に降り立ち、元町商店街、南京町、大丸百貨店、さらに中突堤方面へ向かう来街者のため、歩道部を拡幅する。ただし混雑する年末年始の期間、中央幹線道路から元町商店街入り口間の工事は休む。



■事務局 ビジョン委員会に参加

兵庫県が開発するビジョン委員会のメンバー編成組み換えにあたり、元町商店街をテーマに活動するグループの一部メンバー入れ替えをうけ、同会から協議会に対し元町商店街の歴史を知りたいとの申し出を受け、10月6日(金) まちづくり会館で事務局が対応、明治7年5月20日にスタートした元町商店街はじまりの時からJR駅舎移転による騒動の経緯などを紹介した。



■神戸駅東地区クリーン作戦

神戸駅東クリーンチームは11月4日(水) 12時からハーバー懇談会地域のクリーン作戦を実施した。エスタシオン・デ・神戸から11名、ネットヨタ兵庫(株)23名、元町通7丁目2名が参加、用具持参で道路清掃を行った。



□読者プレゼント

冬季特別展 生誕130周年記念 堂本印象展

堂本印象(1891~1975)は京都生まれ、大正・昭和期の美術界を牽引した日本画家です。本展では、初期から晩年に至るまでの作品を通して、つねに新たな表現を追い求め、今日へとつながる芸術分野の可能性を切りひらいていった印象の画業を紹介し、展覧会鑑賞ご希望の方は、はがきに住所・氏名・年齢・本紙へのひと言を添えて編集部まで。先着5名の方に、ペア招待券をお送りします。



《冤狐》1928年 京都府立堂本印象美術館蔵

会場: 明石市立文化博物館
TEL 078-918-5400
期間: 12月19日(土) ~ 2021年1月31日(日)
休館日: 12月29日~1月3日

みなと元町

タウンニュース

No. 340

TOWN NEWS



発行: みなと元町タウン協議会 住所: 〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人: 奈良山喬一 編集人: 岩田照彦 電話・FAX: 078-391-0831

連節バス、本格運行に向けた最終段階へ

合資会社ゼンクリエイト 根津 昌彦



決定した神戸を走る連節バスの車両デザイン(左上は車両前部の表情)

よ神戸オリジナルデザインの連節バスがお目見えすることになり、非常に楽しみである。車両デザインはすでに本年9月に公表済みであり(図1)、『PORT BLUE~みなとまち神戸の風景をうつし込むひと・まちが輝く新たな公共交通~』をデザインコンセプトに、鮮やかな群青色と黒、白の3色を用いて、流

神戸都心エリアへの来街者、周遊者などの移動の利便性向上を目的として、既存の公共交通の活用と新たな交通手段である連節バスなどを用いたBRT(Bus Rapid Transitの略。連節バス、PTPS(公共車両優先システム)、バス専用道、バスレーンなどを組み合わせることによって、速達性・定時性の確保や輸送能力の増大が可能となる高次の機能を備えたバスシステムのこと。)の導入に向けて、約6年前から本格的な検討が進んできたことは、皆さんご存知であろうか?

過去3ヶ年に渡って3回の社会実験を行い、三宮から新たなウォーターフロント開発が進む新港突堤、ポートタワー、ハーバーランドを通り、神戸駅へと繋がる連節バスの運行が、来年4月から本格スタートしようとしている。12月2日には、「第4回都心~ウォーターフロント間における連節バス等運行に関する協議会」が開催され、年明け1月に予定されているプレ運行に向けた詳細な調整事項などの話し合いが行われ、近日具体的な運行日が公表されることであろう。

過去3回の社会実験による走行では、既にある車両を用いた連節バス走行であったが、今回のプレ運行では、いよいよ

神戸都心エリアへの来街者、周遊者などの移動の利便性向上を目的として、既存の公共交通の活用と新たな交通手段である連節バスなどを用いたBRT(Bus Rapid Transitの略。連節バス、PTPS(公共車両優先システム)、バス専用道、バスレーンなどを組み合わせることによって、速達性・定時性の確保や輸送能力の増大が可能となる高次の機能を備えたバスシステムのこと。)の導入に向けて、約6年前から本格的な検討が進んできたことは、皆さんご存知であろうか?

さて、ここで図2に示された連節走行ルートをご覧いただきたいのであるが、みなと元町タウン協エリアに関して言えば、海岸通の南の国道2号を東西に走行はするものの、沿道には停留所が1ヶ所も予定されていない。振り返れば、毎月第1金曜日にタウン協役員会を開催し、タウン協エリアに関連する公共事業に関しては、都度行政の担当部局が報告や相談においでいただいていたが、この連節バス運行に関しては、一度もタウン協役員会の場では話に上

公表されている各バス停間の移動時間(予定)を見ると、新港町⇄ポートタワーは最大の8分という時間設定がなされている。交通事情を踏まえた時間設定であることは理解できるが、1周約45分というルートで8分間×2が同区間の移動時間ということになるに、元町エリアは

単なる通過点というように判断されているようにも思えた。地元の声を聞く機会が過去に設けられていたかどうかは定かではないが、この連節バスによる移動者を、元町にどのように吸引していくかについては、まちとしてもしっかりと考えていくべき課題のように感じるのである。

ハーバーランドと元町商店街との連携については、2年前にハーバーランド運営協議会が定めた「ハーバーランドプラン30」の中でも、「パートナー関係を深める」ということが掲げられ、その一つの取り組みとして、弁天町交差点にかかる陸橋の延伸と改造が現在進められようとしているが、このBRTの導入にあっても連携強化を達成する手段の一つになり得るのではなかったのだろうか。

弁天町交差点の平面移動(横断歩道設置)は、道路事情から極めて難しいということが言われているが、2つの商業集積エリアが連節バスで結ばれることで移動配慮者へのバリアフリー化を実現することにもつながると考えるならば、定時運行確保という課題と相反するであろう「停留所増設」について、利用者の声を元町として集めて、バス事業者や行政に働きかけを行っていくことも視野に入れて、来年度のまちづくりとして考えていくテーマであると思う。



連節バスが走るルートとバス停間の移動時間

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 12月

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) TEL361-4523
12月28日(月)~1月4日(月)休館

◇元町映画館(有料) TEL366-2636
12月 5日(土)~12月11日(金)

『ロシオ・モリーナLIVE - カイター・デル・シエロ』
『淀川アジールさどやんの生活と意見』
『どこへ出しても恥かしい人』

12月 5日(土)~12月18日(金)
『彼女は夢で踊る』『タゴール・ソングス』

12月12日(土)~12月18日(金)
フレディ・M・ムーラー特集「マウンテン・トリロジー」
『ひとくず』

12月19日(土)~12月25日(金)
『さらばわが愛、北朝鮮』『島にて』
『テロルンとルンルン』・「デニス・ホッパー特集」

12月19日(土)~12月30日(水)『おもかげ』
12月26日(土)~12月27日(日)『死靈魂』

12月28日(月)~12月30日(水)
『ハッピーアワー』

◇元町5丁目商店街振興組合

12月5日(土)~12月13日(日)福引セール
“神戸牛食べくらべセット!” “5丁目各店の逸品!”
当たります。

期間中、元町5丁目商店街でお買い上げのお客様に抽選券を1枚進呈1枚で1回抽選に参加。



栄町通クリーン作戦

栄町通まちづくり委員会は、11月13日(金) 10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(元栄海三丁目協和会)奈良山喬一、(神戸市)川口雄也、(広島銀行)曾我部真介、(兵庫県信用組合)中村公亮・仲川雅夫・井上博之・田川智之・足立英則・山崎綾音、(株)KKテクノ)松本美紀・手植菖惟、(株)神明)後藤智朗、(神明倉庫)米沢彩香、(株)イーエスプランニング)谷川原吉彦・大澤優希・三河晶子、(三鈴マシナリー)野田常美、(佐野運輸)北島幸男・末松明、(大一産業)高橋美樹子、(走水神社)兒嶋英毅、(新光明館)中川 俊・西村友博・篠原博明・清水康佑・大森貴美子、(佐田野不動産)佐田野宏之、以上27名みなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



編集後記

1991(平成3)年3月にスタートした「みなと元町」は、今年3月21日(令和2)12月31日(令和3)12月31日までの30年間の歴史を振り返ると、元町通7丁目の栄町通は、震災を機に、金融街の復興とともに、街の再開発が進み、街の活性化が図られています。この30年間の歴史を振り返ると、元町通7丁目の栄町通は、震災を機に、金融街の復興とともに、街の再開発が進み、街の活性化が図られています。

海という名の本屋が消えた（85）

平野義昌

諏訪山界限(3)

詩人・山村順(1898～1975年)が1965(昭和40)年に発表した「諏訪山金星台」という詩を見つけた。〈丘の上は 秋であった／そこには 中世紀風の建物があり／黄ばんだ夕暮の気が／雑草の上を ゆれていた〉^{註1}
 続いて動物園のこと。〈このあたり／昔は 動物園があり／虎や ライオンが／鉄柵のなかに 生きていた／一夜 突如として空襲／虎や ライオンは／帝国臣民とともに／姿を消した〉^{註1}

山村は「けいべつすべき栄光と憎悪」は焼き尽くされたか、と問う。動物園の残骸のなかに「動物のにおい」と「ナチやカイザーの臭い」を嗅ぎ取る。戦後20年、まだ人々に戦争・空襲の記憶が鮮明にあった。〈丘のむこうに／町があって／人や 車が ひしめきあって／港へ 海へと 落ちていくが／季節は しずかに／秋から／冬へと／移行する〉^{註1}

1928(昭和3)年6月22日、神戸区宮諏訪山遊園内(金星台下の斜面)に諏訪山動物園が開園した。翌日の「神戸新聞」は、「小鳥、水禽、猿の種類もかなり多種類に至って集められている」と伝えている。^{註2}

同年末から早くも拡張工事を実施した。29(昭和4)年4月再開、12月末までに18万人が訪れた。この年から菊花展が恒例になる。入園料は6歳以上2銭。31(昭和6)年さらに拡張工事。33(昭和8)年、大人入園料が10銭に。35(昭和10)年、アルゼンチンのプエノスアイレス動物園にニホンザルとナガオドリを寄贈、返礼としてカラカラ(トビ)とピューマを贈られる。36(昭和11)年には朝鮮李王家の公園・文化施設「昌慶苑」にライオンを贈る。あちらからはオオヤマネコ2頭がやって来た。37(昭和12)年4月の時点で、面積3千9百平米、建物33棟、動物は哺乳類37種100点、鳥類43種118点、爬虫類4種14点、両棲類3種4点、剥製44種である。同年5月、神戸市観光課に移管。動物はキリンとカバがいなくらいになり、ゾウとアシカのショーが始まる。入園料は12歳以上10銭、12歳未満5銭。^{註3}

この頃の職員が回想している。事務所スタッフは園長、飼育長含め8名、他に守衛長、飼育係員が10名ほど。事務職員の主な仕事は宣伝活動だ。新聞各社・映画ニュース社に取材を依頼した。出産、病気、新しい動物、珍しい動物など、話題はいくらでもあった。新聞も動物ニュースで紙面が明るくなる。宣伝効果で、日曜日には1万5千人から2万人が来場した。続いて、「日本唯一の山岳動物園」というキャッチフレーズをポスターやパンフレット類に使用した。他の動物園から「なにが山岳動物園だ」と苦言があったが、入園者は増加した。^{註4}

回想記に、諏訪山は環境が良いのか飼育員が優秀なのかライオンがよく出産した、と記されている。当時のマツ・ウメ夫婦も34(昭和19)年諏訪山生まれである(補註1)。ただライオンは食料費が高いので従来夫婦2頭しか飼育せず、子はよその動物園に譲渡していた。赤ちゃんライオンとのふれあいイベントを実施したところ大人気になり、年間収入予算を半年で達成した。^{註4}

予測できない事件も起きる。ライオンとピューマの決闘、クマの散歩、飼育員がクマに噛まれたこともあった。38(昭和13)年7月の阪神大水害では谷から

引いていた自家水道が全壊した。夏に向けて水不足は動物の生死に関わる。山手の上水道管から園内に取り入れ、ポンプで各動物舎に汲み上げた。^{註4}

職員が楽しく仕事ができただったが、戦争激化の影響は動物園にも押し寄せる。動物に防毒マスクをかぶらせたり、労働力として飼料を運ばせたりなど、デモンストレーションを行った。食料不足からエサの給与量は減り、絶食日が設けられた。肉食獣のエサは馬肉から兎・鶏になった。42(昭和17)年9月、ゾウが栄養不良で死亡した。^{註2}

そのような時期、神戸市は総合文化園の構想を立てる。垂水の丘陵地に博物館、図書館、植物園、水族館、動物園を建設する計画。動物園は165万平米、自然を取り入れる放養式だったが、当然実現しなかった。^{註5}
 動物園の記録には、43(昭和18)年8月軍部が本土空襲に備え「動物処分命令」を発令、とある(補註2)。東京、大阪、京都はじめ全国の動物園で殺処分が行われた。諏訪山の園長・飼育主任は、飼育するため動機していたのだから殺すことはできない、市街地から離れていて被弾の可能性が少ない、万一猛獣が檻から逃げた場合は射殺する、銃を持ち巡回する、と抵抗した。憲兵が定期的にやって来たが、世間話で時間を稼いだ。^{註5}

同年9月3日「毎日新聞」は諏訪山の飼育員の発言として、猛獣たちはおとなしい、敵襲があっても動物園は「自然の要塞」「檻は日本一の頑丈さ」で大丈夫、動物が檻から出て暴れたときは射殺(それは辛い)、と報道している。ところが、同月19日「神戸新聞」は子どもたちに「近く見納めになりますから今のうちによく見ておいて」と促し、処分対象の動物を挙げている。アカグマ、ニホングマ、ライオン、トラ、ヒョウ、シロクマ、オオヤマネコ、ワニなど13種20頭。処置方法は「できるだけ苦しみを与えない薬殺、供養や他の動物園への譲渡にも言及している。^{註2}

44(昭和19)年、野田文一郎市長が殺処分を決断した。9月末、安楽死の観点から苦しむ時間が少ない絞殺の処置(一部薬殺)が取られた。このとき李家寄贈のオオヤマネコは処分されず、密かに飼育されたが、2年後食料不良により死亡した。またワニも理由不明ながら生かさず、こちらは長生きした。^{註5}

上野動物園のゾウの話がある(註6)。毒薬入の餌を与えるが食べない、薬殺を試みるも注射針が折れ、ついに餓死させた。ゾウは餌をもらおうと懸命に芸をし、そのまま息絶えた。一方、名古屋の東山動物園は猛獣を処分したが、ゾウ2頭の飼育を続けた。^{註7}

殺処分後も敗戦後も諏訪山動物園は開園していた。肉食獣とゾウがいないので食料不足はしのげがた、職員総出で草集めをし、駐留軍から残飯の供給を受けた。それでも多くの動物が栄養失調と燃料不足による寒さで死亡、総数200頭から90頭に減少した。入園者も少なく、46(昭和21)年3月末閉園。動物と施設は国際動物愛護協会が管理した。^{註5}

50(昭和25)年7月、神戸市は諏訪山動物園を再開する。設置予定の王子動物園への移転準備のためだ。当時の動物は、ニホングマ1、ヒゲマ(仔)1、エミウ1、タヌキ1、キ

ツネ1、アライグマ1、ニホンザル3、ハイロカンガル1、カラカラ1、ガチョウ2、オーム3、ミミズク2、その他小鳥若干。^{註3}

同年春の日本貿易産業博覧会(神戸博)で展示されたゾウ1頭を受け入れた。秋にゾウ、クロヒョウ、ニシキヘビ、サル、ペリカンが加わる。51(昭和26)年2月、市議会が王子動物園設置可決。3月21日動物園開園式、ゾウ2頭が諏訪山から王子まで行進したが、交通量と見物人に驚き暴走してしまった(註3)。平和な時代なればこそそのハプニングである。

戦前神戸で小学校教師をしていた若杉慧(1903～87年)は諏訪山に登り、町の風景に心寄せた。動物園も見えた。

〈……見おろすと、動物の飼育係であろう数匹のウサギの耳をよせあつめてつかんで、夫婦のライオンの檻の中に入ってきた。鉄扉の内側にドサリと投げ出して、扉をしめて行った。それまであばれていたウサギどもは急にひっそりとなって、片隅に寄り添うようにしていた。(後略)〉^{註8}

若杉は、諏訪山に動物園跡が残るのは土砂崩れ防護のためだろう、と想像する。〈……それだけ急傾斜の山の谷あいを九十九折(つづらおり)の段々にして造った動物園だったのである。入園料を払って入って見なくても、この金星台から見下すと、すぐ目の下に半分以上の動物がまる見えというおもしろい動物園であった。〉^{註8}

^{註1} 現代詩神戸研究会編『詩集神戸市街図』(ジュンク堂書店、1986年)所収。初出は詩集『粹』(第一文芸社、1965年)。1925年山村は福原清・竹中郁の同人誌『羅針』(神戸海港詩人倶楽部)に参加。

^{註2} 豊田和子「諏訪山動物園ものがたり 戦時下の動物園と子どもたち」池見宏子発行、2012年

^{註3} 『神戸王子動物園開園10周年』同動物園編・発行1961年

^{註4} 神崎登詩「諏訪山動物園繁昌記」前掲『10周年』

^{註5} 『王子動物園開園50周年記念誌 諏訪子と歩んだ50年』同動物園編・発行、2001年

^{註6} 土家由岐雄「かわいそうなぞう」金の星社、1970年

^{註7} Web「東山動物園の歴史」<http://www.higashiyama.city.nagoya.jp/history/zoo/story/08.html>

^{註8} 若杉慧「須磨・明石・六甲の旅」秋元書房、1961年

補註1 41年8月8日「朝日新聞」がマツ・ウメ4度目の出産を「ライオンも生めよ殖やせ」と報道している。('王子動物園開園40周年記念誌 諏訪子とともに' 同動物園編・発行、1992年)

補註2 41年8月上野動物園が東部軍司令部の要請により「動物園非常処置要項」を提出。空襲時の処置として、危険度の高い猛獣から低い鳥・カメまで4段階に区分し、それぞれの処分時期を定めた。Web「都市空襲」内「動物園非常処置要項」<https://www.asahi-net.or.jp/~un3k-mn/kusyu-zoo.htm>

軍の処分命令記録はない、との意見もあるが、軍が多くの動物園に指示・要求したことは事実である。写真「昭和15年ごろの園内案内図(ママ、「案内図」の間違いでしょう)。(前掲『40周年記念誌』)

▼ 昭和15年ごろの園内案内図



乙仲通 界限の魅力と可能性 乙仲さんぽ活動報告 ⑤

地域への大学生からの提案

私たち日本建築家協会(JIA)近畿支部兵庫地域会では、2015年度からの3ヶ年乙仲通界限をフィールドに「乙仲さんぽ」と名づけたこの一連のワークショップを行ってきました。その記録の連載も今回で5回目です。今回は2016年のワークショップの様子をご紹介します。初回の2015年度は5回に渡る連続ワークショップを通して、関西圏の学生や地域住民とともに、地域の魅力や課題について調査・分析を行いました。2016年度は、これまでの成果を踏まえながら、界限のさらなる魅力アップと課題解決に向けた提案をコンペというかたちで学生を中心に広く募り、ワークショップ形式で参加建築家の講評や地元の意見を聞きながらまとめていきました。

まち歩きや中間発表・講評を経て、最終的に3大学、15名により10組の提案がまとめられました。2017年2月から3月にそれらを乙仲通の栄町ビルディングとRound Point Cafe



乙仲での活動を振り返って

ここからはこの連載の執筆者がそれぞれに乙仲通についての考えや思い、提言などを自由に語るコーナーになっています。2015年から2017年までの三年のワークショップが終わった際に、その3年の活動をまとめた冊子を作ろうということになり、皆でコラムを書くことになりました。その中で私の書いたコラムをここに紹介したいと思います。他のメンバーのコラムも「乙仲さんぽ2015-2017」でお読み頂けます。(http://www.jia-hyogo.jp/test/otsunaka.php)
 タイトルは「レトロの寿命」
 『乙仲通りは「雰囲気のある」通りである。港神戸の荷揚げ労働者のたむろしていた通りらしい。当時の少し怪しいムードが残るなかにぼつぼつとインディーズ系の服屋や雑貨屋などの独自の鼻を持つ人たちがどこからともなく集まって出来た街だ。近くの大学で教えている縁で軽い気持ちでお手伝いできればと思いこの

で展示し、来場者は延150名にもなりました。神戸市長も立ち寄ってくださいました。2017年の3月には最終の発表会・表彰式を行いました。最優秀賞に選ばれたのは「路地でつながる商店集合住宅～乙仲での新しい暮らし方の提案」(京都工芸繊維大学チーム)でした。提案では「乙仲通の独特な生活感あふれた雰囲気を作り出す「開口(window)」「路地(alley)」「アトリエ(atelier)」という3つの要素を用いて、「職」と「住」が一体となった乙仲ならではの商店集合住宅を設計した。」とあるように、乙仲通りの雰囲気を建築的要素に分解して再構成するデザインでした。出来上がったのは職場と住むところが混在する低層の複雑な建築で、通りに活気が溢れ出る感じが魅力でした。優秀賞は「乙仲散策ほっとスポット～ちょっとひと休み～」(松蔭女子学院大学チーム)で、通り沿いの空き地を乙仲らしいデザインの休憩所やトイレなどの公共空間にするものでした。これも通りを活気づける魅力的な提案でした。ユニークなもの

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部 兵庫地域会
 乙仲通界限デザインワークショップ実行委員会

では「乙仲通りの印」(神戸山手大学、(現・関西国際大学))の夜の乙仲通りのビルの表面に様々なデザインのマークを光で映す提案がありました。ユニークでありながらもとても実現性があり特別賞を受賞しました。他にも乙仲通り沿いに様々なストリートファニチャーを設置する「乙仲通りの再編」(京都工芸繊維大学チーム)や乙仲の東の入口にある現在広い駐車場の敷地に複合ビルを提案した「歴史的街並みと現代都市の「狭間」に」(京都工芸繊維大学チーム)が佳作となりました。最終の審査の審査員は地元神戸で活躍するJIAのメンバー6名と乙仲通から一名ご参加いただき計7名で行いました。どの案を選ぶかは審査員の眼力を試される場でもあり、JIAメンバーも緊張した面持ちでした。最終2案が決戦投票となる熱戦となり僅差で最優秀が決定しました。この年の活動とコンペの様子は「乙仲さんぽ2016年度提案作品集」(<http://jia-hyogo.jp/otsunaka.php>)にまとめられています。是非ご覧ください。



つもない。しかしこのような、今は理由や理屈が(私の中では)ちゃんと付かないけれど皆が共通して感じる街の良さを残していきたいという思いを、何かしらの行動をして表現し、記録に残していくことはきっと意義のある事である、と私は思いたい。ほんとうにまちづくりはむずかしい、、、』

という内容でした。古い街が雰囲気を残しながら繁栄するのはどんなかたちで可能なのか? 世界の成功例ではニューヨークのソーホーやチェルシーが有名ですが、乙仲にはちょっと違うと思います。個人的には若者で熱意があってお金が無いひとがお店や事務所を出せる街であり続けて欲しいと思っています。勝手な思いですが。

山隈 直人 (やまくまなおと)
 (株)kt一級建築士事務所 代表
 /関西国際大学(旧神戸山手大学)
 現代社会学部総合社会学科 教授
 /2015-2016年度乙仲通界限デザインワークショップ実行委員長

